

◆ その後の動向

中国に残された雄大な自然の保護は、国際的にも関心が集っています。昨年、アメリカの自然保護団体から香格里拉も含めた雲南省西北部や、長江中上流域の生物や自然保護に280万ドルの資金が寄せられたのも、その一例です。

中国環境保護局の統計によると、2004年末の自然保護区の数 は2194箇所、面積は国土の14.8%を占めています。国家自然保護区は2005年に17の地域が新たに加えられて243箇所 に達しています。コラムでも述べたように、乱開発や地球温暖化などによる自然破壊が進行しつつあり、例えば、長江や黄河の水源地である三江源流地区をはじめとする湿原は後退が著しく、その回復と保持が急務となっています。自然保護区を増やす主要な目的の一つとして、水や土壌の流出を防ぐ事が挙げられるのは当然の成り行きでしょう。

目下、中国全土950の県で入山放牧禁止が実施されていますが、こういった積極的な方策は益々必要になってくるでしょう。ただ、東北の興安嶺山脈でも見られるように、表向きは伐採を禁止しても、政府の監視官が賄賂をもらっていくらかでも伐採させているようなしりぬげが続く限り、自然保護も掛け声倒れになる危険があります。